

福祉フォーラムへの入会について

福祉フォーラムは会員制の組織です。参加ご希望の方はご入会をお願いいたします。(福祉フォーラム行事は非会員の方も参加可能です)

年度会費 (4月1日～3月31日)

2,050円(税込)

入会方法

龍谷大学福祉フォーラムホームページのご入会フォームから手続き、
<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/rec/welfare/admission/>
 または、福祉フォーラム事務局までお問い合わせください。
 申込および入金確認をもって入会手続完了となります。

会員特典

1. フォーラム事業(講座、フォーラム等)に会員割引にて参加できます。
2. 福祉フォーラムの各種事業案内をお送りいたします。
3. 福祉フォーラム通信をお送りいたします。
4. 龍谷大学図書館を利用できます。
 (図書館の利用には図書館利用カード(RINSカード)が必要です)

ご入会ご希望の方は事務局(☎077-543-7744)にご連絡ください。

※FAXでのお申し込みも受け付けております。FAX 077-543-7771 までお申し込み必要事項(お名前、フリガナ、ご住所、TEL、E-mailアドレス、ご職業(一般の方 or 本学卒業生、本学学生))をご記入の上、お送りください。

お問い合わせ

龍谷大学福祉フォーラム事務局 (REC 滋賀内)

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5

Tel 077-543-7744 Fax 077-543-7771

E-mail r-fukushi@ad.ryukoku.ac.jp

ホームページ <http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/fukushi/>

JR 琵琶湖線「瀬田」駅下車
 帝産バス「龍谷大学」行き(約8分)
 名神高速「瀬田西IC」(大阪方面から)
 「瀬田東IC」(名古屋方面から)より
 文化ゾーン方向へ車で約5分【駐車場有】
 ※駐車台数に限りがあります。



龍谷大学福祉フォーラムは、福祉という切り口から、地域住民や学生、NPO、行政、企業等、多様な立場の人々が集い協働する場を提供し、“共生”をキーワードに、社会のすべての構成員が、生き生きと暮らせる新しい地域づくりをめざして設立され、毎年、福祉フォーラム、共生塾、専門セミナー等を開催しています。

去る9月27日(土)に第12回共生塾が開催されました。今号では、その報告と12月13日(土)開催予定の「福祉フォーラム2014」概要のお知らせ等を皆様にお伝えします。

龍谷大学福祉フォーラム会長 山田 容

第12回共生塾の報告

テーマ: 「つながる、つなげる、おもしろい活動たち」
 開催日時: 2014年9月27日(土) 13時～16時
 場所: 龍谷大学瀬田キャンパス REC ホール
 話題提供者: 川島 和久氏(アイリス)、河合 資氏(グリーンキッチン)
 Organic Farm やおよろず

第12回共生塾開催報告

龍谷大学社会学部教授 西川 淑子

秋晴れの9月27日に開催された共生塾は、まさしく「共生塾」の名にふさわしいものとなった。小学生から80代までの参加者48名が龍谷大学のRECホールに集まった。

2014年度に行う第12回共生塾のテーマは「つながる、つなげる、おもしろい活動たち」であった。従来の福祉実践に限定せず、ユニークな活動を行っている人々を通して自分たちの暮らしを見直し、他とつながる一歩を始める機会を見つけようという趣旨であった。報告者は3人。まずは瀬田駅前のレストラン「グリーンキッチン」を経営する河合資さんとそこでの食材を調達なさっている野菜農家「やおよろず」さんが掛け合いで、彼らの活動を報告してくださった。河合さんは、デザイナーでもありレストラン経営を通して、人のつながりをデザインしてお





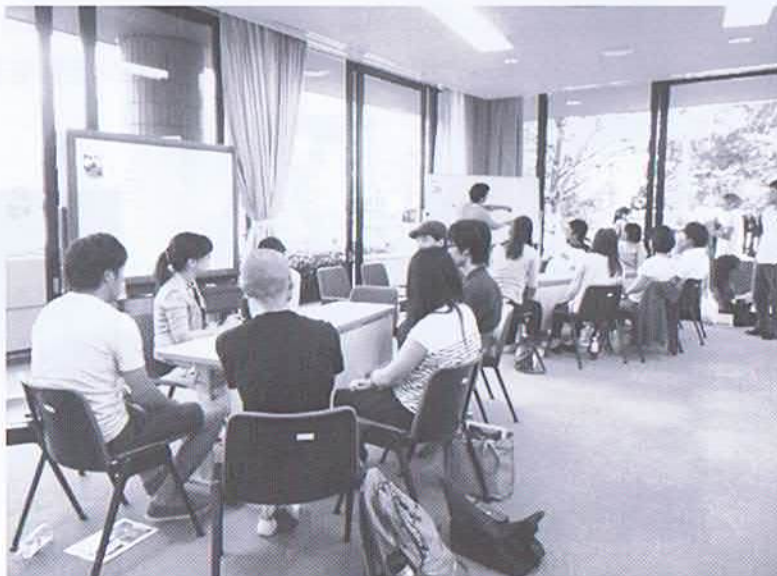
られるかのようだ。「店をやっているだけではつながらない」「生活して地域に飛び込んでいくことによってつながる」とのこと。もっと若い世代に現在ある活動の隙間にビジネスチャンスを見つけて欲しいと話す。そこには若者がつながることへの希求がある。栗東の山間地区の民家に移住して、野菜作りをなさっているやおよろずさんは、地元とつながるには地元の人と共有できるものを見つけることが一歩と、昔ながらの

集落で暮らす奥の手を披露してくださった。

また、もうお一人の報告者である社会福祉法人虹の会、アイリスの川島和久さんは、3年前から「ぎょうれつ本舗」の活動を続けておられる。山間部や過疎集落など買い物困難な地域へ、食材や日用品を積んだ販売車で定期的に出向く「移動商店街」である。担い手は、障害者就労事業所のメンバーたちと職員さん。障がいを持つ人がサービスを受ける側から、サービスを提供する側への転換を目指す。元はといえば障がいのある人が住民と一緒に働く場が少ないことや障がいの理解が進まないという課題があった。ところが、この活動は、障がいを持つ人と山間部の人々をつなぐことを超えて、交流の少なくなった山間部の人々どうしがつながる活動になった。

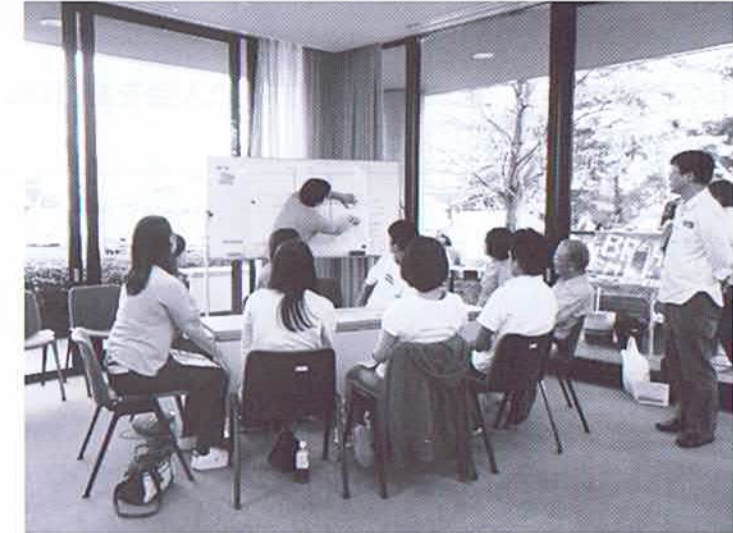
会場となったRECホールの周りには、有機農法によるなんともユニークな野菜や食品、手作りの品々が並べられて、思う存分買い物を楽しむことができた。作り手と買い手がいろいろ情報を交換、提供しながら売る、買うという行為にここでも「つながり」を大いに感じることもできた。

また、6グループに分かれて、「今日、何を学びたいか」、そして「明日からやってみたいこと」を意見交換した。それぞれのグループではさまざまな発言が飛び出して一つにまとめることは難しかったが、日常をふり返り、今と未来にやってみたいことに思いを馳せつつ、テーマ「つながる、つなげる」



を深めることができたように思う。

今回の共生塾は、参加してくれた多数の本学学生が、大学と地域をつなぐ潤滑油になった。参加者たちは、美味しい野菜の試食もあって満足した一日を過ごすことができた。



福祉フォーラム 2014 「わかち合いのまちづくり」(予定)

定員140名
先着順受付
無料

【日時】2014年12月13日(土) 13時より16時まで

【会場】大津市ふれあいプラザホール(明日都浜大津 4階)

※明日都浜大津は、京阪電鉄浜大津駅下車徒歩3分

<趣旨>

近年、地域のつながりに関心が集まり、特に東日本大震災以降は、防災を中心としたまちづくりの取り組みが各所で始まっています。

「まちづくり」にはさまざまなアプローチがありますが、主体となることが多い行政、社会福祉協議会などの専門機関以外にも多様な人々、組織の関わりがあります。さらにそれらは防災に収斂されることなく、また弱者をいかに支えるかといった支援的視点にとどまらず、そこに住まう人たちの共生をテーマにした幅広い実践も見られます。

今回の福祉フォーラムでは、障害と働き、寺院、環境などを起点としながら、各地で「まちづくり」に取り組む実践者の方々をお招きして、さまざまな人たちがそれぞれの役割を持ちながら暮らしていける豊かなまちづくりのあり方を考えてみたいと思います。

詳細は福祉フォーラムホームページ

<http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/welfare/forum.html> をご覧下さい。